

## シベリア極寒の地ベルホヤンスクの植物

札幌市 高橋英樹

二回目となったシベリア調査で、人が定住している所としては地球最極寒の地と言われるベルホヤンスクを訪れることが出来た。1993年7月10日から17日までの1週間であった。

ベルホヤンスクは、東シベリアのヤナ川沿いに開かれた人口約二千の寒村である。冬の最低気温がマイナス約70度、夏の最高気温が30度を越し年較差は100度に達する極度の大陸性気候に支配されている。この夏は、本来降水量の少ない東シベリアにしては雨が多く、ぐずつき気味の天気が多かった。

ベルホヤンスク付近の高木はすべてダフリアアカマツである。より南に位置する首都ヤクーツク付近で見られるヨーロッパアカマツやシラカンバは見られない。植生としてはこのようなカラマツ林、河畔のヤナギ林、それに丘陵斜面に発達するステップ植生が目立ったものである。行動圏はほとんどヤナ川沿いに限られ、最も高いところで標高300メートルに達しなかったから、



この付近の平地から丘陵帯あたりを見たことになる。

以下に現地で見えた植物について紹介する。

### ヒメエンコウソウ *Caltha natans*

調査期間中我々が泊まっていた農家の裏手にヤナ川の河跡とみられる池があった。ここにヒメエンコウソウがあった。東シベリアではここだけでしか見なかった。雄しべ・雌しべとも多数でキンポウゲ科らしいことは分かったが、花が白いのでまさかりユウキンカ属 *Caltha* とは思わなかった。札幌に帰ってきてから満州水草図譜(1942)を見て名前を知った。モンゴルから中国東北部、東シベリア、カムチャッカ、アラスカ、カナダ北部にかけて分布する。



### ピローラ・グランディフロラ

*Pyrola grandiflora*

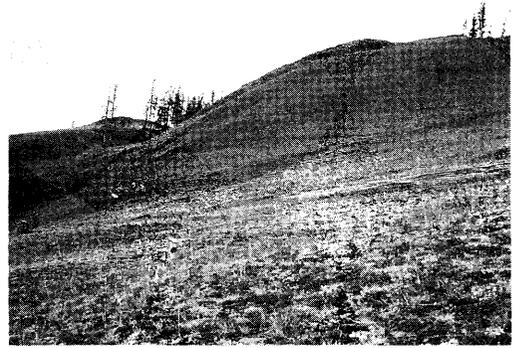
イチヤクソウ属の植物で、本来は北方のツンドラ地域に生育するものだが、ベルホ



ヤンスクではカラマツ・ヤナギ林に生育している。ヤクーツクより南ではいわゆるベニバナイチヤクソウ *Pyrola incarnata* がカラマツ・シラカンバ林に典型的に現れる。これに較べると花弁が広く開き花茎もややずんぐりとなる。東シベリアでは低緯度から高緯度への変化に伴ってタイガ地域にベニバナイチヤクソウが、ツンドラ地域に *Pyrola grandiflora* が住み分けているようだ。ベルホヤンスクは植生から言えばタイガの一部とみられるが、極度の大陸性気候のためツンドラ的な植物も生育可能なものかもしれない。

### ステップ

前号でも述べたように、東シベリアの中央部には大陸性気候を反映したステップ植生が点々とある。中央アジア、モンゴルの砂漠・ステップ植生の北への張り出しと解



釈でき、ベルホヤンスクのステップ植生はまさにその最北端に位置するものと言えよう。イネ科の *Stipa* やキク科のヨモギ属、バラ科の *Chamaerhodos*、そして裸子植物のマオウ属などがその典型的な構成種である。今西錦司 (1952) によると、大興安嶺では南北両斜面の非対称地形と永久凍土の厚さに関係がある。つまり南向き斜面では夏期に永久凍土層が溶かされて乾燥気味になるためカラマツのタイガが成立しにくく草原になる、と言う。東シベリアで見られるステップ植生も基本的にはこの考え方で説明できそうである。東シベリアにおける地形、凍土層の厚さ、植生との関係についてはより詳細な研究が必要であろう。

なお、調査は文部省の援助を受けておこなった研究 (研究代表者福田正己教授) の一部をなすものであった。